

# 2022年3月期～2024年3月期 中期経営計画に関するお知らせ

## 株式会社免疫生物研究所

JASDAQグロース 証券コード:4570



代表取締役社長 清藤 勉

2021年5月28日(金)

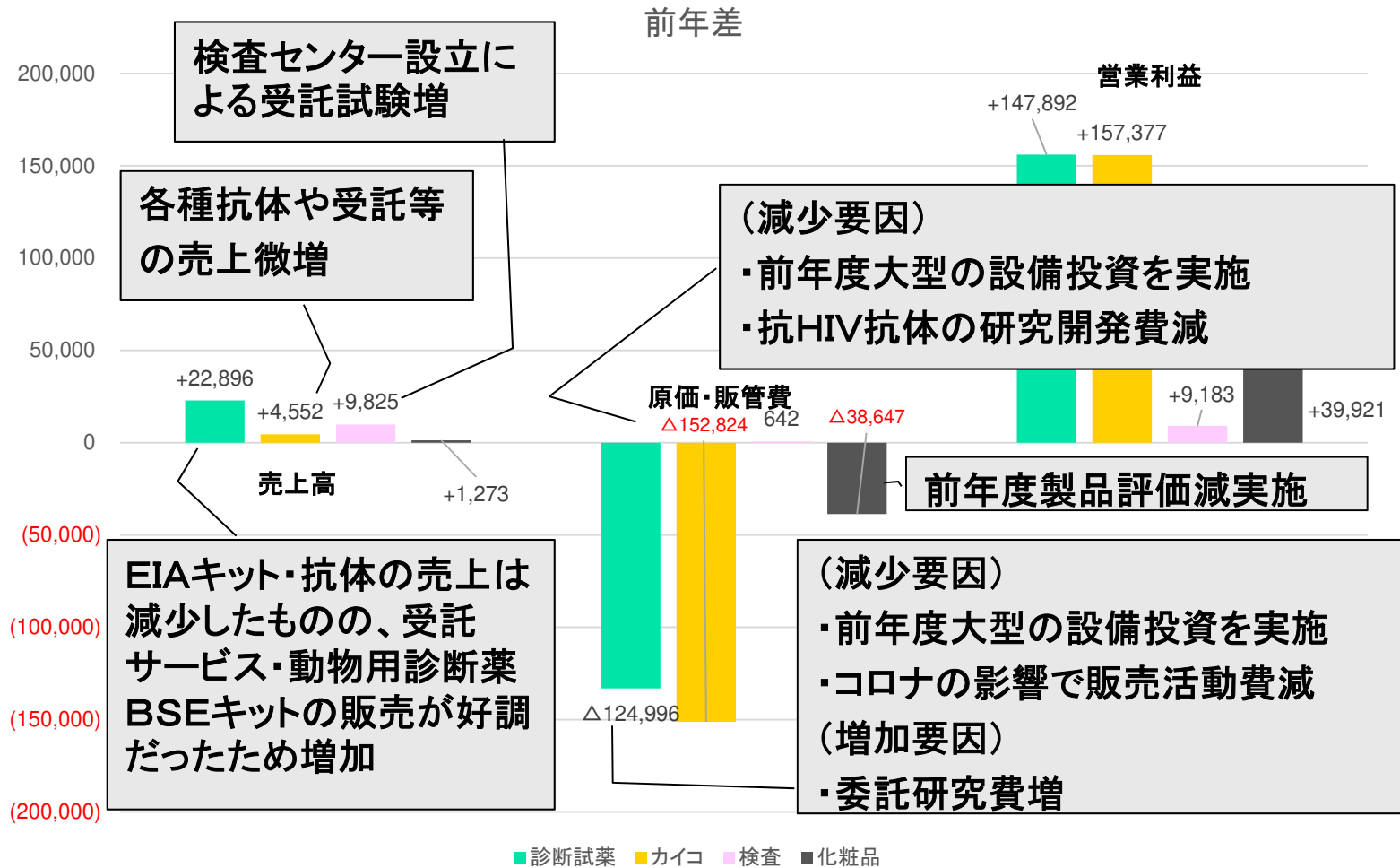
- 2021年3月期（第39期）  
決算報告（連結）
- 中期経営計画（2022年3月期～2024年3月期）

## 全社業績(連結)

(単位:千円)		2020年3月期 第38期	2021年3月期 第39期	差 額
売上高	診断・試薬事業	471,203	494,099	+22,896
	遺伝子組換えカイコ事業	25,245	29,797	+4,552
	検査事業	71,636	81,462	+9,825
	化粧品関連事業	12,873	14,146	+1,273
	調整額	△4,266	△16,757	△12,490
	合計	576,692	602,749	+26,057
営業利益	診断・試薬事業	△124,457	23,434	+147,892
	遺伝子組換えカイコ事業	△391,891	△234,514	+157,377
	検査事業	△26,227	△17,043	+9,183
	化粧品関連事業	△53,741	△13,820	+39,921
	調整額	960	960	—
	合計	△595,359	△240,984	+354,374
経常利益		△678,762	△310,511	+368,250
親会社株主に帰属する 当期純利益		△668,125	△318,827	+349,297

### 【セグメント別 損益前年差】

(金額: 千円)



## 貸借対照表（連結）

（百万円）	前期末	当期末	増減	主残高
流動資産	1,592	1,124	△468	現預金 604(△429)
固定資産	779	713	△66	
資産合計	<b>2,372</b>	<b>1,838</b>	△534	投資有価証券 514(△81)
流動負債	397	145	△252	転換社債【短期】 - (△200)
固定負債	26	63	+36	
負債合計	<b>424</b>	<b>208</b>	△215	
純資産合計	<b>1,948</b>	<b>1,629</b>	△319	※( )は、前年差
負債純資産合計	<b>2,372</b>	<b>1,838</b>	△534	

※新株予約権未行使総額

(株)ウィズ・パートナーズ 454百万円（570,000株）行使期間 2021年12月19日まで

## □ キャッシュ・フロー（連結）

(千円)	2020年3月期 (第38期)	2021年3月期 (第39期)
営業C/F	△608,746	△194,145
投資C/F	+10,818	△17,233
財務C/F	+81,195	△216,000
現金及び現金同等物の 期末残高	974,456	552,022

■ 2021年3月期（第39期）決算報告（連結）

■ 中期経営計画  
（2022年3月期～2024年3月期）

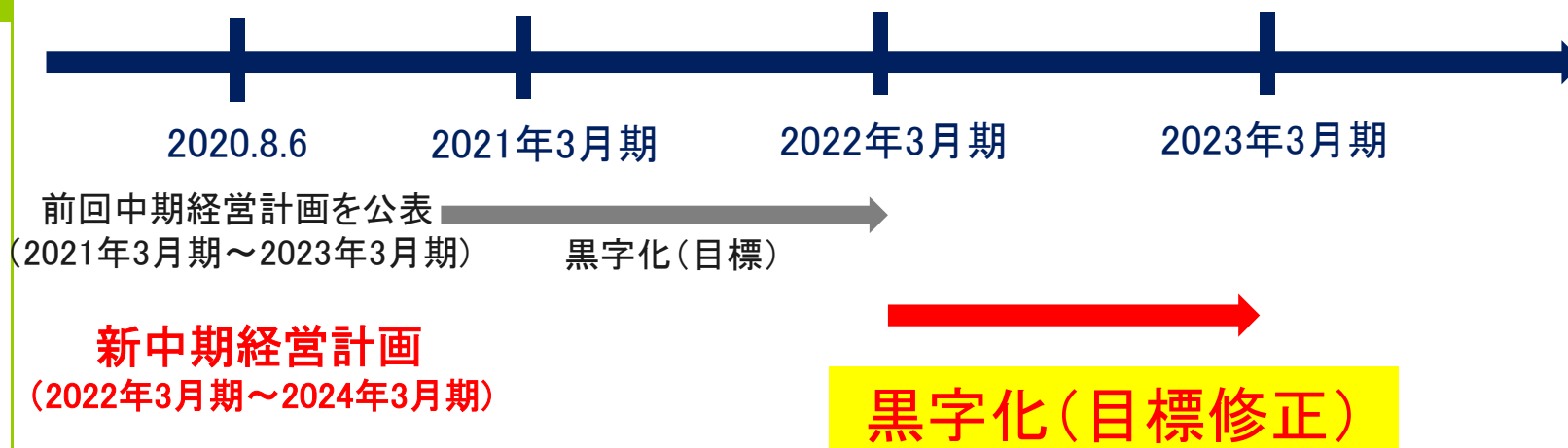
# 新中期経営計画（連結）

2022年3月期（40期）～2024年3月期（42期）  
（3カ年計画）

事業環境の変化に迅速に対応し、よりスピーディーな意思決定を図る



### 数値目標(連結営業利益:黒字化を目指す)



#### (修正理由)

- ① 遺伝子組換えカイコの繭による大手診断薬メーカーへの供給予想のズレ
- ② 化粧品(フレヴァン)の中国商標取得の遅れ(2021年3月31日取得を公表)
- ③ 新型コロナウイルス感染再拡大

#### (改善要因)

- ⇒2023年3月期より安定供給(増加予想)
- ⇒2022年3月期第3四半期より本格稼働
- ⇒デジタルマーケティングの強化実施

## 研究目標

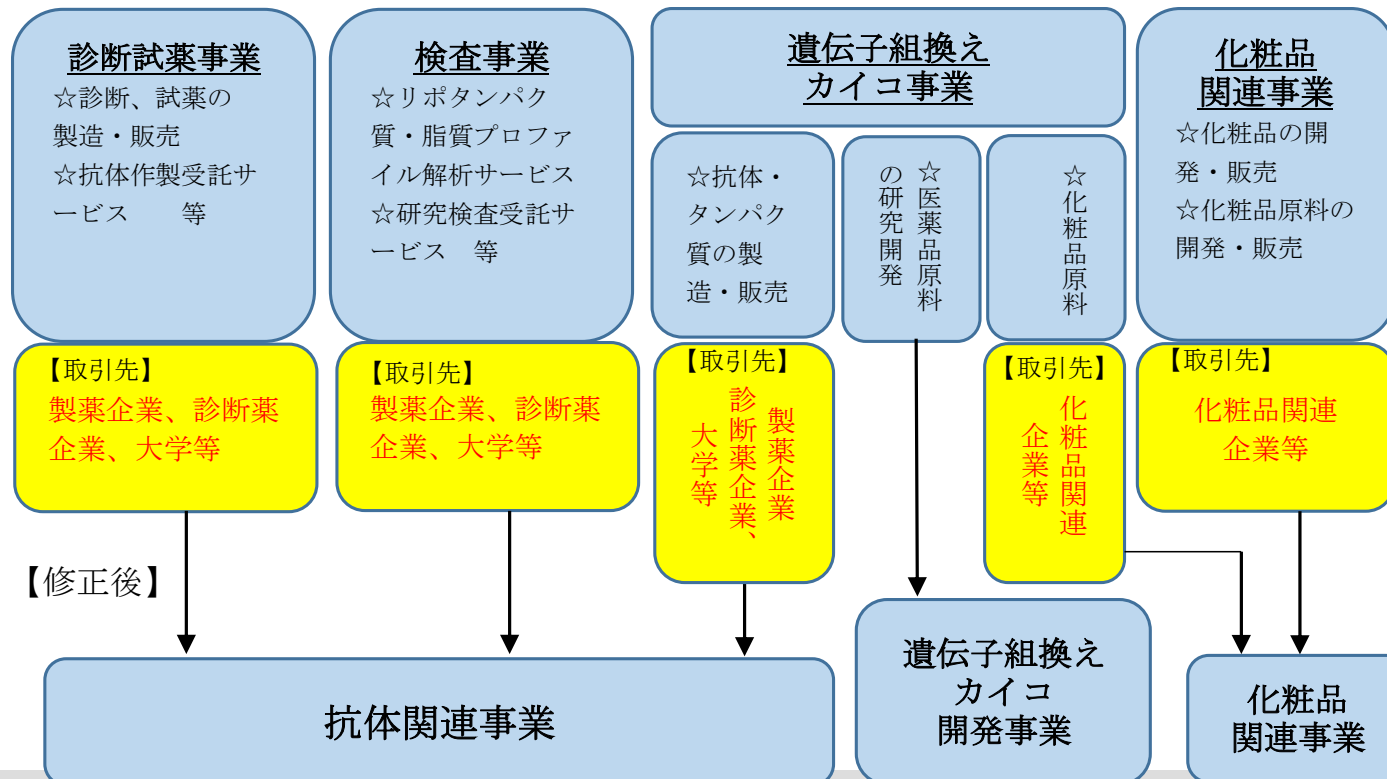
2022年3月期(40期)～2024年3月期(42期)

- ・カイク菌生産コスト  
1/10低減を目指す
- ・医薬品シーズの  
早期導出を目指す
- ・体外診断薬用医薬品の拡大  
(提携を視野)

### 数値目標 報告セグメントの変更

取引先の類似性や関連性を鑑み、販売体制や経営資源の共有化を図り、事業運営及び研究開発のスピード化や効率化を推進し、事業グループの価値の向上を図るため、「抗体関連事業」「遺伝子組換えカイコ開発事業」「化粧品関連事業」の3つの報告セグメントにて策定

【変更前】



## 数値目標 2022年3月期(40期)～2024年3月期(42期)

(単位:百万円)	38期 (実績)	39期 (実績)	40期 (予想)	41期 (中計)	42期 (中計)
売上高 <b>注1</b>	576	602	770	1,010	1,250
抗体関連事業	563	588	670	810	950
遺伝子組換えカイク開発事業 <b>注3</b>	—	—	—	—	—
化粧品関連事業	12	14	100	200	300
営業利益(△損失)	△595	△240	△107	<b>黒字化</b> 2	122
抗体関連事業	△300	△54	<b>黒字化</b> 5	82	172
遺伝子組換えカイク開発事業(研究開発費)	△240	△172	△125	△120	△120
化粧品関連事業	△53	△13	<b>黒字化</b> 13	40	70
経常利益(△損失) <b>注2</b>	△678	△310	△154	<b>※ 新報告セグメントにて策定</b>	
親会社株主に帰属する 当期純利益(△損失)	△668	△318	△162	注1 導出による収益は含まれていない 注2 持分法による投資損失を含む 注3 遺伝子組換えカイク事業は、開発に集中するため、製造・売上高については、抗体関連事業に統括	

## 数値目標 抗体関連事業

(単位:百万円)	38期実績	39期実績	40期予想	41期中計	42期中計
抗体関連事業(売上高)	563	588	670	810	950
診断試薬サービス	468	482	545	600	650
検査サービス	69	76	95	120	150
TGカイクサービス	25	29	30	90	150
営業利益	△300	△54	5	82	172

Eマーケティング(SNS等)を活用した海外戦略を構築し、独自技術を日本をはじめ世界へ広め、販売拡大を目指す(診断試薬サービス、検査サービス)

登録衛生検査所「IBL解析センター」において、大手検査会社との提携によりHPLC測定項目の販売拡大を目指す(診断試薬サービス、検査サービス)

体外診断用医薬品(原料含む)8品目以上の上市を目指し、安定収入の拡大を目指す(診断試薬サービス)

TGカイク菌の優位性を活かし、診断薬原料の販売拡大を目指す(TGカイクサービス)

販売管理費においては、組織変更により、販売体制や経営資源を共有化し、事業運営のスピード化や効率化を図る(抗体関連事業)

### 数値目標 遺伝子組換えカイコ開発事業

(単位:百万円)	38期実績	39期実績	40期予想	41期中計	42期中計
TGカイコ開発事業(売上高)	—	—	—	—	—
研究開発費	240	172	125	120	120
営業利益	△240	△172	△125	△120	△120

組織変更(2021年5月14日公表「組織変更および役員人事並びに人事異動に関するお知らせ」参照)により、研究開発に集中

変更前

遺伝子組換えカイコ事業

変更後

製造販売部門



抗体関連事業  
化粧品関連事業

研究開発部門



遺伝子組換え  
カイコ開発事業

【目的】

生産コスト低減に向けた  
研究開発に集中できる組  
織に変更



コスト管理を徹底し、研究  
成果のスピード化を図る

## 数値目標 化粧品関連事業

(単位:百万円)	38期実績	39期実績	40期予想	41期中計	42期中計
化粧品関連事業(売上高)	12	14	100	200	300
営業利益	△53	△13	13	40	70

### ○国内販売

遺伝子組換えカイコ開発事業が開発した、化粧品原料「ネオシルク®-ヒト型コラーゲンⅢ」を使用した高級化粧品の開発に取り組み、高品質を求めるユーザーに幅広く提供できる製品を開発し、販売拡大を目指す

### ○海外販売(中国)

商標登録問題が解決(2021年3月31日公表の「株式会社ネオシルク化粧品における「frais vent」商標登録の完了に関するお知らせ」参照)し、既存代理店ルートでの販売再開、及び新規販売ルートによる販路拡大を目指す

### ○海外販売(欧州・その他)

欧州現地代理人は、オンライン販売会社「PolyNeo GmbH」を設立し、Eマーケティング(SNS)やAmazonへ出店にて、販売網を拡大し売上増加を目指す

## 研究目標

### 医薬品シーズ開発

2021年2月16日に合弁会社「AI Bio」  
(持分法適用会社)を設立

「ダニ媒介性感染症である重症熱性  
血小板減少症候群」(SFTS)に関する  
治療用抗体医薬品候補ACT101」  
の、早期承認を目指して開発中

「新型コロナウイルス感染症」  
(COVID19)治療薬につきまして、  
ABCONTEK 社が手掛ける中和活性  
の高い、治療用抗体医薬品候補の  
実用化を目指して開発中

現在、外部リソースを活用し製造に適する生産細胞株の構築を実施中  
今後、3年以内の導出を視野に入れた研究開発ならびに導出に向け活動中



## 研究目標

### 医薬品シーズ開発

国立大学法人徳島大学と胃や腸の消化管壁の粘膜下にある未熟な間葉系細胞に由来する「肉腫」の一種とされる、GIST(消化管間質腫瘍)を診断、治療するための抗体医薬品を研究開発中。製薬企業等への導出等を目指す

現在、特許出願の準備中

## 研究目標

遺伝子組換えカイコ開発事業

### 蚕業革命への挑戦

遺伝子組換えカイコの繭により産生されるフィブリノゲンや抗HIV抗体を開発し、医薬品原料の生産を目指し研究開発を邁進してきたが、いずれも生産コストの問題等により生産を断念

課題

今後の遺伝子組換えカイコ事業最大の挑戦と捉え、抗体やタンパク質の生産コストを1/10程度に低減するための基礎研究に集中

克服

医薬品原料生産の可能性を大きく高める

## 研究目標

## 体外診断用医薬品の主な研究開発テーマと進捗状況

標的分子	CTP(Cochlin-Tomo-Protein)	VEGF	グルカゴン	Titin-Nフラグメント	赤痢アメーバ
上市予定	2022年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2024年3月期
対象疾患	外リンパ腫	クドウ・深瀬 (POEMS)症候群	血糖調節因子	筋ジストロフィー	赤痢アメーバ症
申請区分	新規(クラスⅢ)	新規(クラスⅢ)	既存(クラスⅠ)	新規(クラスⅢ)	既存(クラスⅢ)
共同研究先	埼玉医科大学 試薬販売業者	製薬企業	群馬大学	神戸大学 昭和大学	—
進捗	医薬品承認済 (試薬販売業者) 保険適用申請済	医薬品承認済 (試薬販売業者) 2021年6月保険適用	開発中	医薬品申請 準備中	開発中 申請準備中
IBLの役割	・試薬開発 ・受託製造	受託製造	試薬開発 医薬品申請	試薬開発 医薬品申請	医薬品申請



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品申請の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。